

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

【類型Ⅱ】

1. 実践校について

実践校名	(ほっかいどうのぼりべつせいりょうこうとうがっこう) 北海道登別青嶺高等学校		
学科名	児童・生徒数	学級数	
全日制課程普通科	391	11	

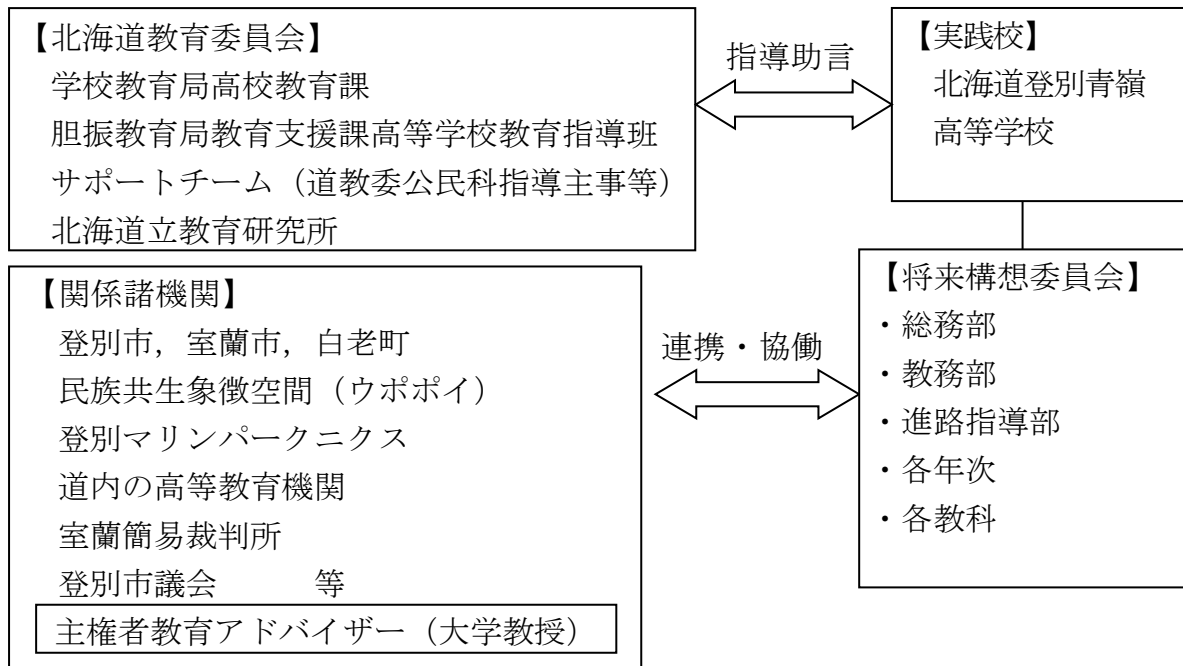
2. 実践研究の対象

学科名	学年	生徒数	学級数
全日制課程普通科	1	118	3
	2	125	4
	3	148	4

3. 実践研究の実施経過

月	対象	内 容
4月	教員 1年次	本事業の周知, 将来構想委員会で「じもと学」の検討開始 総合的な探究の時間 (地域研修①)
7月	1年次 1年次	意識調査① (事業実施前) 現代社会「政治参加と公正な世論の形成 (地方自治Ⅰ)」
8月	1年次	現代社会「政治参加と公正な世論の形成 (地方自治Ⅱ)」①
9月	1年次 全学年 教員	現代社会「政治参加と公正な世論の形成 (地方自治Ⅱ)」② ※単元計画に基づく研究授業及び指導主事との研究協議 模擬選挙 (生徒会役員選挙) 「じもと学」の年間指導計画の提示
10月	1年次 1年次	総合的な探究の時間 (地域研修①) 現代社会「法や規範の意義及び役割, 司法参加の意義」① ※単元計画に基づく研究授業及び指導主事との研究協議
11月	1年次 1年次	総合的な探究の時間 (地域研修② (地域研修①の発表会)) 現代社会「法や規範の意義及び役割, 司法参加の意義 (模擬裁判)」② ※公開研究会 (道教委「授業改善セミナー」と共催)
12月	1年次	裁判所及び議会見学
1月	教員	事業連絡協議会への参加
2月	1年次	現代社会「雇用と労働問題」 意識調査② (事業実施後)

4. 実践研究の実施体制



5. 教育委員会等として取り組んだ内容

(1) サポートチームによる指導助言及び支援

- ・道教委のサポートチーム（公民科担当指導主事7名と本校を所管する胆振教育局の指導主事1名で構成。以下、「サポートチーム」という。）を編成。サポートチームが、実践校への教科指導訪問等の機会を活用し、本研究の進捗状況について把握するとともに、研究推進上の課題を整理し、その解決に向けた具体的な取組等について、指導助言した。
- ・新科目「公共」を見据えた単元計画を実践校と連携して作成するとともに、その計画に基づき行われた1年次「現代社会」における、模擬選挙、模擬裁判、模擬議会等の実践的な学習の進め方について、実践校に対し指導助言した。
- ・実践校において令和4年度から実施する、学校設定科目「じもと学」の年間指導計画の作成について、指導助言した
- ・本研究の進捗状況等に係る進捗状況や、本研究における課題解決の方向性等について、高校教育課や胆振教育局高等学校教育指導班と情報共有を図った。また、実践校と関係諸機関との連携を調整するなどして、本研究の円滑な推進に向け支援した。

(2) 道教委「授業改善セミナー」の実施

- ・道教委が主催する「授業改善セミナー（教科指導講座「地理歴史・公民」）」において、本校の実践を「公共」の先行事例として紹介し、他校に成果を普及した。
- ・本セミナーにおける研究授業（模擬裁判）の実施に当たり、サポートチームが、実践校への教科指導訪問等の機会を活用し、単元計画に基づき実践校に指導助言するとともに、札幌地方裁判所室蘭支部、北海道みらい法律事務所等の関係諸機関との連絡・調整を行い、実践校を支援した。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

【類型Ⅱ】

実践校名：北海道登別青嶺高等学校（普通科）

研究主題

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム（育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画の開発～公民科及び学校設定科目「じもと学」を中核とする、地域と連携した主権者教育の実践～

主題設定の理由

1 本校の現状

本校は、「至誠」「錬磨」「自律」の校訓のもと、登別市で唯一の全日制普通科の高等学校として、地域に根ざし信頼される学校づくりに努めており、生徒の多様な進路実現を目指し、生徒一人一人に社会人として必要な総合的な人間性等の涵養と学力向上を柱にした教育活動を展開している。また、本校では、主権者教育の充実にも取り組んでおり、生徒会活動において、生徒会役員選挙の際に各ホームルームで選挙に関するリーフレットを作成して配布するなど、生徒の政治的教養を育むとともに、主権者として求められる資質・能力を育む教育活動に積極的に取り組んでいる。

令和3年度からは、普通科単位制高校として、生徒の多様なニーズに対応した選択科目を設置する予定であり、令和4年度には、2・3年次の学校設定科目「じもと学」を開設し、教科等横断的な探究学習や、コミュニティ・スクールを活用して地域の関係諸機関と連携した体験学習を実施することとしている。

2 本校の課題

本校の生徒は、教科や特別活動等において与えられる課題等については、積極的に取り組むことができるが、一方で、現実の社会に主体的に関わろうとする姿勢や態度、課題解決のために必要な公正な判断力等が十分に身に付いていない者も見られ、主権者としての資質・能力の習得に課題が見られる。そのため、現実の社会を見据え、自ら地域の課題を追究したり、他者と協働して解決に向け構想を立て実行するなどの学習活動を通じて、主権者として必要な主体的に社会に参画するための資質・能力を育成する必要がある。

3 本研究の方向性及び学習プログラムの概要

本研究では、公民科や家庭科、学校設定科目「じもと学」及び特別活動等において、生徒が現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むこととする。その際、国際性豊かで歴史の深い観光都市である登別市をはじめとする地域の恵まれた環境を生かして探究学習を設定し、地域の人材や関係諸機関と連携しながら研究を進めることとする。

また、本研究の内容を整理するため、生徒の高校3年間及び将来を見据え、育成を目指す資質・能力をベースに整理した、教科等横断的な学習プログラム（主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画を開発する。

4 研究を通じて実現を目指す生徒の姿

現実の社会を見据え、自ら地域の課題を追究したり、他者と協働して解決に向け構想を立て実行するなど、主権者として必要な主体的に社会に参画するための資質・能力を身に付けた生徒の育成を目指すこととする。

5 学習プログラムに期待される効果

道内の高等学校においては、公民科の学習はもとより、模擬裁判や模擬議会等の実践的な学習により、主権者教育の充実に取り組む学校が増えてきてはいるものの系統的・継続的な主権者教育が確立されていない現状が見られる。そこで、本研究において、学習プログラム（主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画を開発することにより、本プログラムを参考に、各学校において生徒や地域の実態に応じた全体計画等や「公共」の単元計画を作成するなどして、系統的・継続的な主権者教育が行われ、生徒の主権者としての資質・能力が一層育まれることが期待される。

概要

現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力を育むための教科等横断的な学習プログラム（育成を目指す資質・能力をベースに整理した主権者教育の全体計画）及び新科目「公共」の単元計画の開発。

学習プログラムの主な内容

① 政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅰ【公民科・2時間】

登別市職員等からの概要説明により、生徒が地域の課題を見出す機会を設定。

- ・市職員等と協働した「社会と私との関わりを考える授業」の実施
- ・ガイドブック「のぼりべつテイクアウトグルメコレクション 2021」作成への参画

② 政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅱ【公民科・2時間，特別活動・1時間】

選挙の仕組みを理解し、選挙の課題を見出し、その課題について主体的に考察。

- ・「政治参加と公正な世論の形成・地方自治」に係る単元計画の開発及び研究授業
- ・生徒会選挙を活用した模擬選挙

③ 政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅲ【公民科・2時間，総合的な探究の時間1時間】

地域課題を考える研修やワークショップ等を通じて、地域の課題について理解を深め、よりよい社会の実現を視野に、諸課題の解決について考察する。

- ・地域研修の実施
- ・地域課題を考えるワークショップの実施

④ 法や規範の意義及び役割，司法参加の意義【公民科・6時間】

司法について理解し、司法の手続きを模擬的に体験することを通じて、公平・公正な判断について多面的・多角的に考察する。

- ・「法や規範の意義及び役割，司法参加の意義」に係る単元計画の開発及び研究授業
- ・札幌地方裁判所室蘭支部及び登別市議会の見学

⑤ 雇用と労働問題，財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化【公民科・10時間，総合的な探究の時間・3時間】

経済の仕組みや社会保障などについて理解し、持続可能なまちづくりについて、これまでの学習を踏まえて具体的な主題を設定し、その解決策を考察・表現する。

・「主として経済に関わる事項」に係る単元計画の開発及び研究授業

⑥ 学校設定科目「じもと学」の全体計画等の作成【委員会等】

令和4年度開設の学校設定科目「じもと学」について、サポートチームと連携して全体計画及び年間指導計画を作成し、実践校の将来構想委員会で検討する。

学習プログラムの成果の概要

- サポートチームと連携し、新科目「公共」の実施を見据えた単元計画を作成した。また、道教委が主催する「授業改善セミナー」において、作成した単元計画に基づく研究授業を実施し、先行事例として普及することができた。
- 札幌地方裁判所裁判官及び北海道みらい法律事務所弁護士と連携した模擬裁判や、登別市議会と連携した模擬議会、札幌地方裁判所室蘭支部室蘭簡易裁判所の見学など、実践的な主権者教育に取り組み、生徒の「主権者として主体的に社会に参画するための資質・能力」の育成を図ることができた。
- ICTを活用し、Google フォームを用いたアンケート（意識調査）を実施したことにより、生徒の意識の変容を継続的・効果的に把握することができた。また、授業中に生徒が考察したことをテキストマイニングで可視化して瞬時に全体で共有するなど、生徒に多面的・多角的に考察させるなどして、思考力・判断力・表現力等の育成を図ることができた。
- Google フォームを活用したポートフォリオ評価を実施したところ、データから、生徒の思考力・判断力・表現力等に明確な向上が見られた。また、生徒が記述した意見や感想等をデータ化して扱うことにより、教員の学習指導及び評価の改善につなげることができた。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（内容）

【類型Ⅱ】

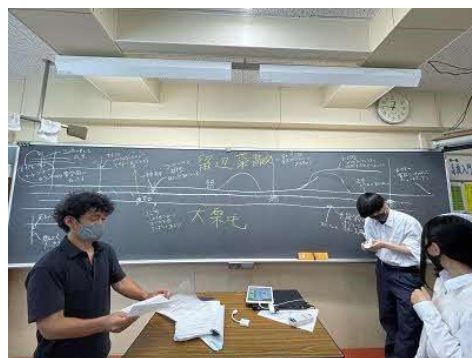
実践校名：北海道登別青嶺高等学校（普通科）

学習活動① 政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅰ

- 1年次の現代社会において、登別市職員及び地元の雑誌編集者と連携した「社会と私との関わりを考える授業」を実施した。市職員から市の概要及び令和3年の経済対策について講義を受けた。また、編集者から事前課題（地域のおすすめ飲食店の情報収集）をもとにしたマップの作成について説明を受けた。



市職員による講義



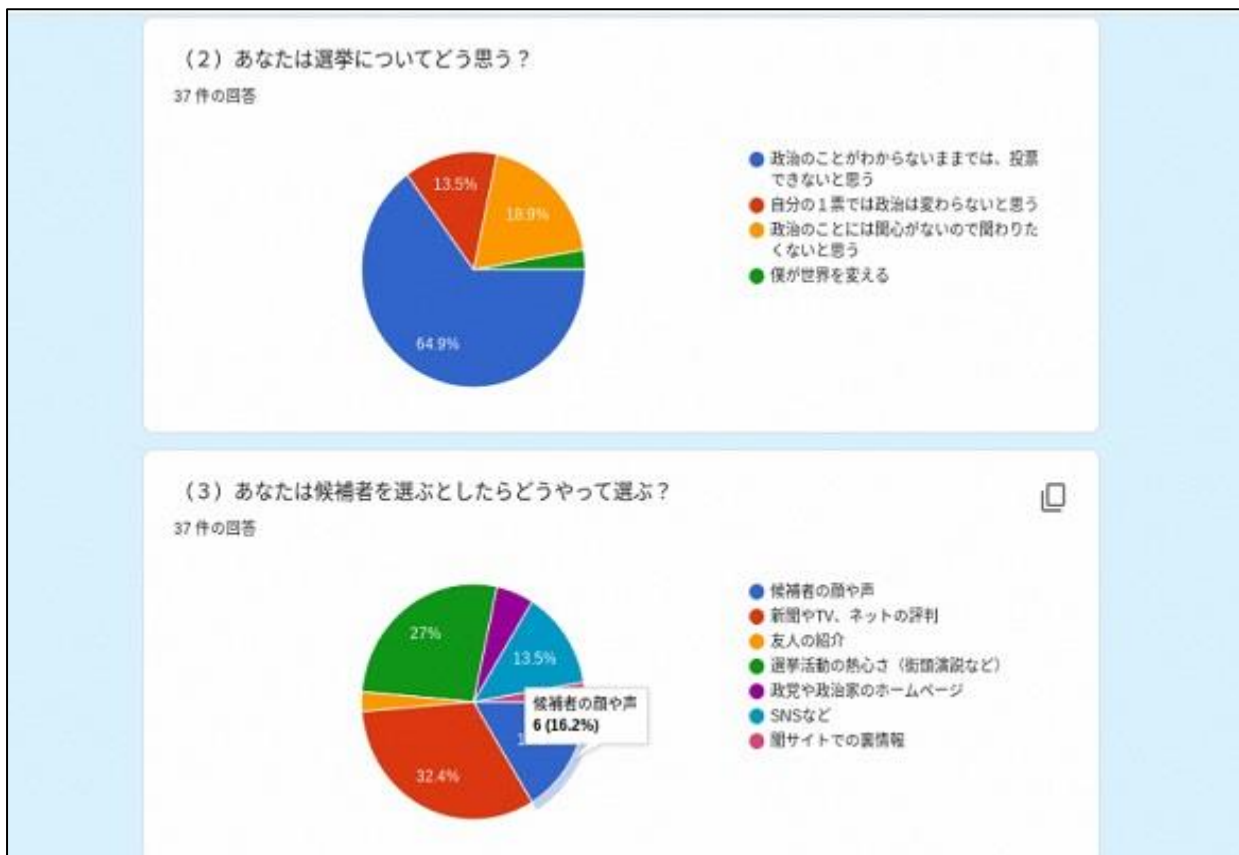
編集者による説明

- ガイドブック「のぼりべつテイクアウトグルメコレクション 2021」の作成に当たり、生徒が店舗を取材したり、ガイドブックのノンブル（ページ振り）の作業を行ったりするなど、地域経済の活性化を図る取組に参画した。



学習活動② 政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅱ

○ サポートチームと連携し、新科目「公共」の実施を見据えた「政治参加の重要性」に係る単元計画を作成し、これに基づく研究授業を実施した。生徒に対し、Google フォームを活用して選挙に関するミニクイズを出題し、その回答やテキストマイニングの結果を瞬時に共有する場面を設定したり、選挙における年代別投票率の推移から若者の投票率向上のための方策を考察させたり、架空の政党づくりを通じて政策を検討したりする活動を通じて、政治や社会参画に関わる資質・能力の育成を図った。また、研究授業の最後に、北海道選挙管理事務局胆振支所職員から、高校生の段階から当事者として選挙や政治について考えることの意義等についてオンラインで助言をいただいた。



○ 上記の学習を踏まえ、生徒会役員選挙、投票及び開票を実施した。事前に、副教材「私たちが拓く日本の未来」を活用して選挙の流れなどを確認し、投票時に使用する本物の投票箱や記載台（登別市選挙管理委員会から借用）を活用して、実際の選挙に近い形式で投票を行った。このほか、本校では、選挙管理委員会と連携し、実際の国政選挙において、就職活動等で不在となる生徒を対象とした不在者投票も実施した。



学習活動③ 政治参加と公正な世論の形成・地方自治Ⅲ

- 1年次の総合的探究の時間において、4月に民族共生象徴空間「ウポポイ」及び登別マリンパークニクスへの地域研修を実施し、10月には、①ふおれすと鉱山（NPO法人モモンがくらぶ）及び登別酪農館への「登別の自然と町づくりコース」②地獄谷への「登別温泉の歴史と観光コース」③洞爺湖ビジターセンター及び北黄金貝塚（伊達市）への「防災教育と縄文文化コース」の3つのグループに分かれて地域研修を実施した。地域資源を教材とした体験的な活動を通じて、SDGsの視点から持続可能な社会づくりを目指す課題解決型の学習を実施した。



地域研修「ふおれすと鉱山」



地域研修「登別酪農館」



地域研修「北黄金貝塚」

- 研修後に、地域課題を考えるワークショップを実施し、各コースのテーマに基づきグループでSDGsの視点に立った「まちづくりのアイデア」を考察し、各コースで中間発表を行った。その後、地域研修に関わった市職員や地元企業、NPO法人等に参加していただき、各コースの代表グループが全体発表を行った。



学習活動

法参加



- サポートチームと連携し、新科目「公共」の実施を見据えた「法や規範の意義及び役割、司法参加の意義」に係る単元計画を作成し、これに基づく研究授業を実施した。「NHK for school『昔話法廷』」を教材にした模擬裁判を通じて、裁判員に求められる公平・公正な判断について、多面的・多角的に考察させた。



考え方を働かせながら、持続可能なまちづくりに関する政策を提案させるなど、多角的・多面的に考察・構想し、表現させた。

授業研究② 学校設定科目「じもと学」の全体計画等の確定

- 次年度に実施する学校設定科目「じもと学」について、サポートチームと連携しながら、将来構想委員会で全体計画及び年間指導計画を作成した。

この科目は、生徒が在住している、登別市、室蘭市、白老町などの「じもと」の産業や歴史・文化等について理解を深め、地域の課題や解決策を考察する学習活動を通じて、地域発展のために活躍できる資質・能力を身に付けることをねらいとしている。

そのため、本計画の作成に当たっては、登別市職員や関係団体と打合せを重ねるなど、関係各所と連携・協働を図りながら進めた。

令和3年度「学校設定科目」の年間指導計画				
北海道登別青嶺高等学校				
教科	科目名	年次・コース	単位数	教科書・副教材等
総合	じもと学Ⅰ	2・3年次	2	
1. 学習の到達目標				
登別・室蘭・白老等「じもと」の産業・自然・歴史・文化・未来などを通して豊かな教養を身につけるとともに、多面的・多角的な視点に立ち、「じもと」の現状や課題(問い)を発見・考察することで、じもと発展のために活躍できる資質や能力を育てる。学習内容を踏まえ、「じもと学Ⅱ」に向けて適切な探究テーマを設定する。				
2. 評価の方法				
観 点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
観点の趣旨	ワークショップや種資料などから、じもとの課題解決に必要な情報を理解し、適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。	じもとの現状や課題を多面的・多角的に考察し、考察した過程や疑問を適切に表現している。課題の解決に向けて事実や指標を基に自分の考えや探究したい内容を適切に説明・表現している。	様々な活動を通して、じもとの課題を積極的に見出し、課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。	
評価の方法	ワークシート作成の内容評価 ポスター等成果物の内容評価	ワークシート作成の内容評価 ポスター等成果物の内容評価 課題学習の発表	ワークシート作成の内容評価 レポート	
3. 学習の留意点				
(1) 毎時間の内容と目標を事前に確認し、意識して取り組むこと。 (2) 様々な活動の中なら「問い」「疑問」「仮説」を立て、次の学習に結びつけるよう取り組むこと。 (3) ワークショップやシャドーイングなど校外との関わりに積極的に参加すること。 (4) メモなど記録をしっかりとつけ、毎時間の「まとめ」を行うこと。 (5) 1年間の活動を踏まえ、次年度に探究したいテーマを設定すること。				
4. その他				
5. 学習の計画				
月	単元名	指導内容	配当時間等	
4月	オリエンテーション・意識調査	じもと学の目標・内容の確認と意識調査を行う	4時間	
5月	探究基礎学習	資料を用い今後の探究学習に必要な調査・統計等の扱い方を学ぶ	8時間	
6月	じもとワークⅠ		28時間	
7月	「じもとの調査する」	テーマごとに実態調査や考察を行い課題解決に向けた		
8月	「じもとの課題を考える」	仮説を立案する		
9月	「成果分析」「成果発表」	じもとワークⅠの成果を作成し発表する		
10月	じもとワークⅡ		12時間	
11月	「シャドーイング」	シャドーイングを行いじもとの課題を間近で感じとる		
12月	じもとワークⅢ		10時間	
1月	「仮説発表」	1年間の学習成果を整理・考察し発表する		
2月	探究テーマの設定 まとめ	1年間の学習内容を踏まえ、次年度に向けての探究テーマを設定し、探究に向けての計画を発表する	4時間 4時間	

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（成果と課題）

【類型Ⅱ】

実践校名：北海道登別青嶺高等学校（普通科）

成 果

（児童生徒の変容等）

○ 本研究に係るアンケート結果（意識調査）を次の質問項目のとおり実施。

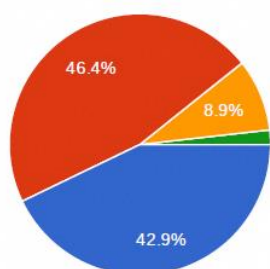
- 1 相手の考えをよく聞いて、考えている。
- 2 自分の意見を相手に伝えることができる。
- 3 うまくいか分からないことにも意欲的に取り組んでいる。
- 4 テレビや新聞、インターネットなどで、政治や社会などに関するニュースを見ている（政治や社会などに関心がある）。
- 5 疑問に思ったことは、インターネット等を使って検索するなどして、自分で調べている。
- 6 他者と協同して、何かを考え解決することは大切だと思う。
- 7 ボランティアなど社会のために役立つことをしているとき充実していると感じる。
- 8 私の社会参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれないと思う。
- 9 政治に参加することは大切だと思う。
- 10 選挙で投票することは大切だと思う。
- 11 自分の国や地域のために役立つと思うようなことをしたいと思う。
- 12 社会をよりよくするため社会における問題の解決に関与したいと思う。
- 13 将来、政策決定など、積極的に政治に参加したいと思う。
- 14 選挙権が与えられたら投票に行こうと思うと思う。
- 15 私個人の力では政府の決定に影響を与えられないと思う。
- 16 今が楽しければよいと思う。
- 17 自分が今、住んでいる地域（市町村）が好き。
- 18 公民科や家庭科の授業などで学習した現実の社会に関することは、将来の自分に役立つと思う。
- 19 学校の授業で、課題などについて生徒同士で話し合う機会がある。
- 20 学校の授業で、生徒同士で議論したことなどを発表する機会がある。

※回答は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の四択

結果を分析すると、「9 政治に参加することは大切だと思う」という質問について、肯定的な回答（下記の円グラフの青色・赤色、以下同じ。）が1回目 89.3%と高い割合であったが、2回目にはさらに上昇して92.3%となった。

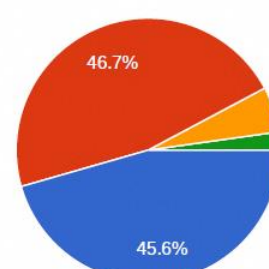
9 政治に参加することは大切だと思う。

112 件の回答



9 政治に参加することは大切だと思う。

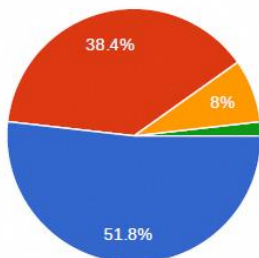
90 件の回答



また、「10 選挙で投票することは大切だと思う」という質問では、肯定的な回答が90.2%から94.4% (+4.2) に上昇が見られた。

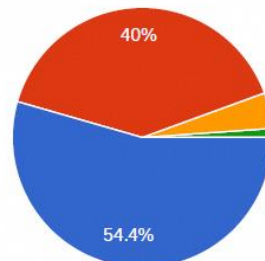
10 選挙で投票することは大切だと思う。

112 件の回答



10 選挙で投票することは大切だと思う。

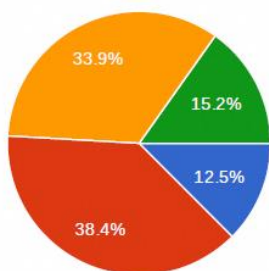
90 件の回答



「13 将来、政策決定など、積極的に政治に参加したいと思う」という質問では、50.9%から61.1% (+10.2) へと大幅な上昇が見られた。

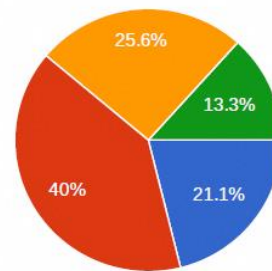
13 将来、政策決定など、積極的に政治に参加したいと思う。

112 件の回答



13 将来、政策決定など、積極的に政治に参加したいと思う。

90 件の回答

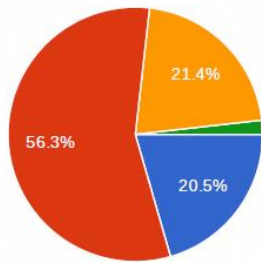


上記の結果から、本校が課題としていた「現実の社会に主体的に関わろうとする姿勢や態度」の育成に一定の成果が見られる。このほか、「14 選挙権が与えられたら投票に行こうと思う」という質問では、79.5%から87.7% (+8.2) へ上昇しており、研究主題として設定した「現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通じて、主権者として必要な資質・能力」のうちの主体的に社会に参画する態度の育成にも一定の成果が見られる。

また、こうした変容は「3 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組んでいる」、「8 私の社会参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれないと思う」、「15 私個人の力では政府の決定に影響を与えられないと思う」という質問でいずれも上昇していることにも関連している。特に、質問15においては、14.3%から36.7% (+22.4) へと教員の予想を大幅に超える上昇となっており、本実践研究を通じて、生徒の主体性そのものが伸長してきているものと考えている。

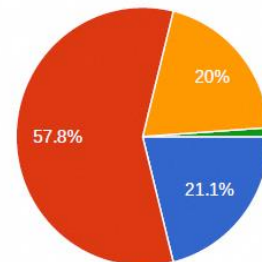
3 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組んでいる。

112件の回答



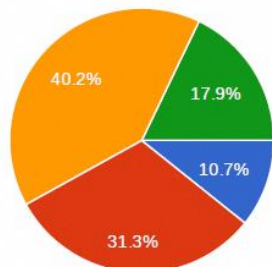
3 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組んでいる。

90件の回答



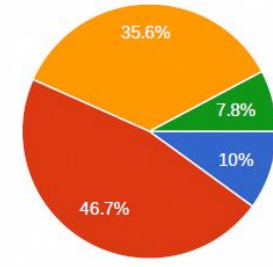
8 私の社会参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられる

112件の回答



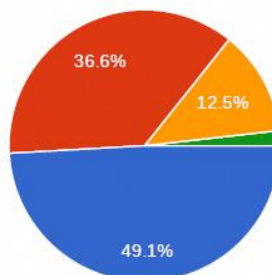
8 私の社会参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられる

90件の回答



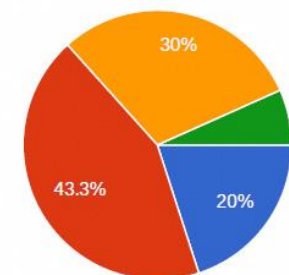
15 私個人の力では政府の決定に影響を与えられないと思う。

112件の回答



15 私個人の力では政府の決定に影響を与えられないと思う。

90件の回答



○ 次に、二度実施した模擬裁判における生徒のワークシートの記述を比較してみると、「単元を貫く問い（「社会参加と合意形成に向けて、市民として裁判に参加するために必要な公正・公平な判断とは何か」）」に対する考察で、1回目の記述では、「加害者側・被害者側のどちらの立場も考える事」（原文ママ（次ページを参照）、以下同じ。）という考察・表現から、2回目には、「公正公平な判断をするためには、それぞれの立場になって考えてみてどちらかにかたよりがないように判断する。どちらか一方の主張だけではなく、両方の主張を聞き、状況証拠や証言をもとに考えることが大切である。ただし、裁判に参加しているのは人間なので間違いや嘘もあるかもしれないので、その判断は難しい」など、思考の質的な変化が見られた。また、他にも、1回目の記述では、「両者の主張、意見、事実をしっかり着目し、感情に左右されるのではなく法に基づいて処罰することが大事だと思った」という考察・表現から、2回目には、「事実だけではなく、両者の論拠にも耳を傾けることで、見えなかった事実とも結び付く。法律に基づいて考えることが第一で、自分の考えだけで決めてしまうと

客観的な判断はできないので、事実・論拠・真実・嘘を見極めることが大事である」という具体的な考察・表現への変容も見られた。このように、二度の実践的な模擬裁判を体験することにより、生徒の裁判員としての公平・公正に判断するための思考力・判断力・表現力等の育成に一定の成果があったものと考えている。

	今日の学習を振り返って、MQに対する今の自分の考えを書いてまとめてみよう	評価	2度の模擬裁判と授業を振り返って、MQに対する自分の考えをまとめてみよう	評価	総合評価
C組	加害者側・被害者側のどちらの立場も考える事	C	公正公平な判断をするためには、それぞれの立場になって考えてみてどちらかにかたよりにないように判断する どちらか一方の主張だけではなく、両方の主張を聞き、状況証拠や証言をもとに考えることが大切である。ただし、裁判に参加しているのは人間なので間違いや嘘もあるかもしれないので、その判断は難しい	A	B
C組	両者の主張、意見、事実をしっかり着目し、感情に左右されるのではなく法に基づいて処罰することが大事だと思った。	A	事実だけではなく、両者の論拠にも耳を傾けることで、見えなかった事実とも結びつく。法律に基づいて考えることが第一で、自分の考えだけで決めてしまうと客観的な判断はできないので、事実・論拠・真実・嘘を見極めることが大事である	A	A

- 指導と評価の一体化に向け、単元計画や授業デザインを検討した際に、「単元を貫く問い」を適切に設定することで、その単元で生徒に身に付けさせたい資質・能力を具現化するとともに、評価規準を明確化することができた。また、問いを適切に設定することで学習内容を精選することもできた。

(取組の工夫)

- 研究主題の実現に向け、サポートチームと十分に連携を図りながら実践した。また、登別市や選挙管理委員会、札幌地方裁判所、弁護士事務所など、外部人材を活用した学習内容を実践するための校内体制を構築した。
- 生徒の主権者として主体的に社会に参画するための資質・能力の育成を図るため、政治・法・経済のそれぞれの知識が、現実社会の課題を解決するための手立てとなるよう、単元計画をサポートチームと連携しながら作成した。その際、「単元を貫く問い」を明確に設定して探究的な学習活動を設定することを重視するとともに、どの学習場面においても、生徒がまちづくりの視点を念頭に考察・表現できるよう、工夫・改善を図った。
- 本研究の中核となる「現代社会」や、地域研修で地域課題を考える「総合的な探究の時間」、地域のグルメを紹介するガイドブック作成等の「特別活動」において、「じもとの活性化」という視点を軸に構成することにより、系統的・継続的な学習プログラムを構築することができた。

(他地域でも参考となると考えられる点)

- 教育委員会と学校が連携した実践研究
※単元計画の開発、学校設定科目の学習内容の検討など。
- Google フォームによるICTの活用
※学習内容の精選、生徒の思考を瞬時に可視化、学習の成果を捉えることなど。
- 外部人材を招いた実践的な学習
※地域探究、模擬裁判、模擬議会等の地域や関係諸機関との協働による学びなど。

課題

- ポートフォリオ評価の改善・充実
※Google フォーム等を一層活用して継続的な評価を行い，評価の客観性・妥当性を高める。
- 学校設定科目「じもと学」を活用した教科等横断的な学習の充実
※公民科教員だけではなく全体で担当できるよう，将来構想委員会で検討する。
- 「単元を貫く問い」の改善・充実
※新科目「公共」において，「単元を貫く問い」の改善を継続的に行い，生徒の主権者として主体的に社会に参画するための資質・能力の育成を図る。